

公益財団法人
いわさきちひろ記念事業団
支援会員制度

2025年度 活動報告書



ちひろ



1. 美術館の設置・運営

2025年度は、東京館は4会期、安曇野館は3会期で展覧会を開催しました。なお、安曇野館は、改修工事のため、前年に比べて3週間ほど開館期間を短縮し、11月10日から冬期休館に入りました。

■来館者総数

ちひろ美術館・東京：	36,578人(前年比98%)
安曇野ちひろ美術館：	77,389人(前年比92%)
合計：	113,967人(前年比94%)

2. 展覧会の開催

ちひろ美術館・東京での展覧会

■3月1日～5月11日

ちひろのアルバム

<企画展>西巻茅子 はじめての絵本

『ボタンのくに』そして『わたしのワンピース』^①

■5月16日～7月21日

アンデルセン生誕220年

ちひろと見つめるアンデルセン

<企画展>ヒロシマ[🍅]トマト 司修展^②

■7月26日～10月26日

<企画展>戦後80年 ちひろと世界の絵本画家たち

絵本でつなぐ「へいわ」^③

■10月31日～2026年2月1日

<企画展>装いの翼

いわさきちひろ、茨木のり子、岡上淑子^④



①



②



③



④

安曇野ちひろ美術館での展覧会

■3月1日～6月1日

<企画展>戦後80年 ちひろと世界の絵本画家たち

絵本でつなぐ「へいわ」^⑤

■6月6日～8月31日

ちひろの いろ せん かたち

ちひろ美術館コレクション もようをみよう

<企画展>てなわで20年。魅惑のチョウ、シntax展^⑥

■9月5日～11月9日

ちひろ 本を読む人 描く人

ちひろ美術館コレクション アンデルセンの絵本

<企画展>ヒロシマ[🍅]トマト 司修展^⑦



⑤



⑥



⑦

他館と提携する展覧会

いわさきちひろ×plaplaX あれ これ いのち^⑧

■4月3日～5月18日 明石市立文化博物館（兵庫県明石市）

ピエゾグラフによるいわさきちひろ展^⑨

■①3月29日～5月6日 花と子ども

■②9月13日～10月26日 窓ぎわのトットちゃん

ミツカンミュージアム（愛知県半田市）

いわさきちひろピエゾグラフ展

■①3月15日～6月2日 ■②6月14日～9月1日

■③9月13日～12月1日 ■④12月13日～2026年3月2日^⑩

「ちひろの生まれた家」記念館（福井県越前市）



⑧



⑨



⑩

支援会員みなさまへ

みなさまの、ちひろ美術館、(公財) いわさきちひろ記念事業団へのあたたかなご理解とご支援に、心より、お礼を申し上げます。

2025年度は、ヒロシマ・ナガサキを経てあの戦争が終結してから80年という節目の年でした。ちひろ美術館では、ちひろを含む戦争を体験した世代から現代の画家たちまで、国内外の作家の絵本原画と絵本、そしてメッセージを紹介する「戦後80年 ちひろと世界の絵本画家たち 絵本でつなぐ『へいわ』」展と、関連する講演会を、東京と安曇野の両館で開催しました。また「平和を考える絵本150冊」を選書し、会期が終わった今も、館内で手に取っていただけるよう書架に並べ、公式ウェブサイトからもダウンロードできるよう公開しています。子どもにとっても大人にとっても、平和や戦争について考えるきっかけになることを願っています。

教育普及活動では、引き続き社会包摂的な視点に立ち、小さいお子さんから高齢の方、障がいのある方など、あらゆるお客様を対象に、地域と連携しながら、絵本や美術を楽しみ、学びを深める機会をつくることができました。

国際社会における対立や、分断が深まり、武力で物事を解決しようとする動きの広がる今、ちひろ美術館や、絵本文化が果たせる役割はますます大きくなっているように思います。絵本に描かれた多様な文化、歴史、暮らし、そしてやさしさや美しさ、人と人とのつながりなどを、これからも大切に伝えてまいります。

2027年、ちひろ美術館は開館50周年、安曇野ちひろ美術館は開館30周年を迎えます。今後も、ちひろ美術館、財団へのご支援を、どうぞ、よろしくお願いいたします。

公益財団法人

いわさきちひろ記念事業団



山田 洋次

ちひろ美術館（東京・安曇野）

館長



王柳 淑子

出久根育展

チェコからの風 静寂のあと、光のあさ

■4月17日～6月16日 イルフ童画館（長野県岡谷市）

自由いっぱい！奇想天外！

長新太 ナンセンス・ワールド^⑪

■7月12日～9月28日

福井県ふるさと文学館（福井県福井市）



⑪

戦後 80 年・ベトナム戦争終結 50 年

立命館大学国際平和ミュージアム秋季特別展

反戦のプリズム

■11月1日～12月25日

立命館大学国際平和ミュージアム（京都府京都市）

3. 作品・資料の収集、保存、並びに、調査、研究

2025年度は、いわさきちひろの作品15点（購入1点、寄贈2点、返却12点）^{⑫⑬}、ザ・キャビンカンパニーの絵本原画38点（購入）^⑭、長新太の作品165点（寄託）等を新たに収蔵し、作品研究を進めました。

いわさきちひろ 9,708点

世界の絵本画家 18,573点

合計 28,281点

（2026年3月31日現在。寄託作品含む）



⑫



⑬



⑭

データベースの公開

日本全国的美術館・博物館の収蔵作品を横断検索できるデータベース「SHŪZO」（運営：国立アートリサーチセンター）に、ちひろ作品9,650点の文字情報を登録し、2025年12月より、初めての公開が始まりました。

4. 教育活動

4月6日 「西巻茅子 はじめての絵本『ボタンのくに』」そして「わたしのワンピース」展関連
西巻茅子講演会（東京館・オンライン・オンデマンド配信）

あかちゃんと保護者のための鑑賞会^⑮

4月12日 ちひろの絵による「窓ぎわのトットちゃん」ワークショップ

7月5日 青空トモエ学園「田んぼの教室・生き物観察会」

（安曇野ちひろ公園）

■寄付者一覧 2025年4月1日～2026年3月31日にご寄付くださった方の中から、これまでにお名前の公表をご許可いただいているみなさまをご紹介します（敬称略・五十音順）。

相澤裕子 青木久男 赤枝操 赤澤香恵 赤羽大四郎 足立史子 足立委子 阿部圭子 阿部敏晃 雨積涼子 天野和義 安藤優子 池田佳己 石井鈴子 石井達也 石川順法 石川寛治 石川敏明 石原民子 石本法子 石本寛 磯ヶ谷海海 井田登史子 板倉明子 板倉裕史 板橋奈津子 井土都賀子 伊藤昭彦 伊藤幸一 伊藤澄子 伊藤信子 井戸田素子 稲垣滋彦 井之浦一子 今津奈津江 今村智宏 岩瀬泰明 上坂朋子 植田浩二 上野誠治 上野るり子 上村真澄 上森雅世 牛越敬 宇田房子 内田伸二 及川千鶴枝 大木義子 大崎あけみ 大島和枝 大谷真知子 大橋愛子 岡百代 小笠原邦夫 岡田早智子 小川恵子 奥村俊博 尾崎由美子 尾関春子 小野陽一 折戸裕子 海澤幸代 柿澤毅 柿澤由香 垣東広美 片倉敬彦 勝又初江 嘉戸秀美 加藤信子 加藤麻弥 加藤裕美子 金子治代 金子真理子 鎌谷雄樹 河合文子 川田和子 河田茜 川端弘子 川人博 川原治之 菊田哲 菊池恩恵 菊地淳一 菊地則好 菊地勝幸 菊地みどり 北井美幸 北村明也 木村いつみ 工藤貴史 久保田ひろ美 熊谷滋子 熊田真代 倉科泰仁 栗原真知子 栗山和希 来栖美和子 来間誠司 黒岩淑子 小出節子 河野のり子 本藤正行 越川恵美子 小平恵子 後藤昭昭 小中政一 虹釜和昭 小林ちひろ 小林登喜美 小林律子 小林真理 小林克知 小松山崇 小松宏江 小柳ひろ子 権田文子 近藤睦美 齊藤雄治 佐伯智子 佐伯めぐみ 境英美 坂口睦男 坂田佳美 岸とも子 櫻井隆 櫻井理恵 佐古恵子 佐治千朗 佐多和子 佐藤昭彦 佐藤和弘 佐藤勝美 佐藤忠仁 佐藤博子 佐藤裕子 佐藤律子 佐藤恵一 鈴木さとみ 鈴木広子 鈴木誠 鈴木真寿子 鈴木美弥子 砂川美江 住吉廣行 関川友美 世古口文和 芹沢哲 千田幹雄 曾我克美 十亀有紀 田井晴彦 高木朝子 高城博道 高西人麿 高野恵美子 高橋英子 高橋節子 高橋俊文 高橋博之 高橋良明 高林千洋 瀧口恵子 滝澤智樹 瀧下弘美 田口弘美 武井一二三 武川雅和 武田登志子 武林真智子 竹淵浩子 竹本靖治 田澤誠 田島貴代子 太刀川久夫 立松房枝 田中美恵子 田中恵 穂山正子 田端憲太郎 田畑裕子 玉井和博 田丸尚美 田村孝子 田村博康 辻喜資 土田忠敬 坪井明子 坪井一恵 坪田慶子 鶴見健二 手塚公久 手塚洋子 寺本英子 といしげ 樫木孝夫 鳥居敬二 富田雅子 永井愛 中川愛 中川薫 中沢まみ 永島宣江 仲島武彦 中島啓幸 中田幸子 中谷至孝 中西時夫 中野和朗 中俣澄子 中村収 中村かよ子 中村俊作 中村紀寿 中村陽子 那須野郁子 西尾泰広 西尾隆子 西俣恵 西村修 仁衛琢磨 野崎五郎 野村睦美 乗けい子 芳賀勝子 橋村孝子 長谷川久子 品川崇司 品山ひさえ 林さなえ 早瀬紀子 原尚子 樋口道夫 菱岡由宇子 平山泰代 廣瀬みお 福田寛 福本明代 藤代誠一 藤本正 藤本純子 淵脇文雄 吉川正巳 星祐樹 星加敏子 星谷昌彦 星野宏子 細貝千鶴子 本多慶子 本間久幸 前川和朗 前田直美 益子良一 眞下弘三 益川洋子 松浦孝一 松本昭 松島恵子 松田和子 松本いずみ 松本加代子 松本繁 松本ちひろ 松本文子 丸山鈞 三坂晴美 水上裕子 水野孝治 三宅恵子 宮澤大介 宮澤孝昇 宮下和也 宮本京孝 宮脇郁子 ミラー美幸 向井千夏 宗本哲司 村上和子 村上潔 村上弘治 村上耕平 元見純二 森義行 森江さつき 森島仁 森本哲 矢ヶ崎芳子 矢田美江 山口文枝 山口恵 山崎加津子 山下和子 山下啓彦 山下裕司 山田久夫 山田弘子 山中敬子 山本たまき 山本朋子 山本由枝 湯澤順 横川浩子 横瀬正裕 吉井芳子 吉岡達也 吉岡正俊 吉川聡子 米山美保 和氣美樹 渡辺幸恵 渡辺妙子 渡部浩子

この一年間、公益財団法人いわさきちひろ記念事業団、ちひろ美術館の支援会員として、私たちの活動を支えてくださりまして、ありがとうございます。

病院との連携活動

来館が難しい患者やその家族を対象に、病院内での複製画展を行うとともに、絵本に親しむ機会を設けました。



現在、院内展示活動を行っている医療機関：東京女子医科大学病院、聖路加国際病院、長野県立こども病院、埼玉医科大学総合周産期母子医療センター、国立成育医療研究センター、同センター医療型短期入所施設「もじの家」、富山県リハビリテーション病院・こども支援センター、聖マリアンナ医科大学病院

6. 国際交流

■7月26日～8月3日

インドネシアのジョグジャカルタで開催されたGulari Festivalにて、Gulari Festival、TaCitaと共催で、いわさきちひろとコレクション画家のピエゾグラフ作品の展示と紙芝居講座などを開催しました。9月6日には、インドネシアから来日したリアマ・シホンビン（パンドン工科大学准教授）と編集者のエヴェリン・ゴザリ（TaCita）による、画家イェ・マルフとインドネシアの絵本についてのトークを安曇野ちひろ美術館にて開催し、相互交流を深めました。



7. 支援活動

ガイドブックの作成

NPO法人I am OKの会の企画により、発達支援の専門家が厳選した絵本ガイド「子どもの発達応援BOOK!!子どもの心をつかむ絵本」を、「みる、よむ、体験する」ねりまフォーラム実行委員会として協力、発行、頒布しました。



（文化庁 令和7年度 Innovate MUSEUM事業）

8. その他

■2025年度刊行の書籍

『1945年8月6日

あさ8時15分、わたしは』

言葉：原爆を体験した子どもたち

あまみきみこ アーサー・ビナード 小川俊子

絵：いわさきちひろ

童心社



■2025年支援会員の日

10月18日、支援会員制度の報告会を東京館、オンライン参加者をインターネットでつなぐ、ハイブリッドで開催しました。2024年度の活動報告の他、ちひろの写真資料にまつわるスライドトークを行い、オンラインで参加のみなさまと会場をつないで交流しました。



■支援会員の状況（2025年4月1日～2026年3月31日）

会員数	696名（新規 107名・継続 589名）
支援会費（寄付金）	7,344,855円
*参考データ：2024年度	7,163,166円
	702名（新規152名・継続550名）

■支援会費の使途

絵本原画の収集・保存・研究・展示公開、絵本の普及、国内外での絵本文化支援の活動等に充たさせていただきます。

■公益財団法人いわさきちひろ記念事業団は、次のような目的をもって活動しています。

子どものしあわせと平和を願いつづけた絵本画家いわさきちひろの業績を記念し、文化の民主的な発展に寄与する活動をおこなう。
散逸しやすい絵本の原画を人類の文化遺産と位置づけ、絵本芸術等に関する資料を収集・保管・展示して教育的配慮のもとに一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業をおこない、あわせて、これら資料に関する調査研究をおこなう。
（「公益財団法人いわさきちひろ記念事業団定款」より抜粋）

■支援会員の輪を広げてください。

ちひろ美術館の支援会員制度について、ぜひお知り合いにご紹介ください。詳しいご案内やチラシをご希望の方は、希望部数と送付先（お名前、ご住所、お電話番号）をお知らせください。

申し込み先：
ちひろ美術館・東京 支援会員制度担当
〒177-0042 東京都練馬区下石神井4-7-2
TEL：(03)3995-0612 FAX：(03)3995-0680
E-MAIL：shienkai@chihiro.jp
・「支援会員制度」はクレジット決済による入会が可能です。
https://chihiro.jp/foundation/donation/
※クレジット決済は外部サイトSyncableに遷移します。



支援会員のみなさまからのメッセージ

ご支援に際して届いたたくさんのメッセージから、一部をご紹介します。

ほぼ年に一度安曇野の美術館にお邪魔しています。行くたびに展示、館の佇まい、庭園、そして安曇野の風景が、気持ちをやさしくさせてくれます。とても感謝しています。
未永く、その存在と活動が続き、多くの人たちがそれに触れることができるよう祈っています。

教育は我々大人が子どもたちに贈れるいちばんいいものだと思います。少しでもわたしにとっては、絵本がその口でした。

子どもの絵を見ると、自然と心があたたかくなります。心の拠り所のような、小さいころからあたたく見守られていたような感覚です。

こうした難しい社会環境下で今後ますます貴財団のような存在が社会で必要と考えます。ますますのご発展を祈念申し上げます。

ちひろさんの平和への思いがこの先もたくさんの人に届きますように。